

## 第2回 総合的な学習研究部研修会

令和元年 8月7日

### 【実践発表と協議】

#### (1) 「地域とのかかわりの中で学んだことを生かす子を目指して」

〈発表者〉内野小学校 林 詩織 先生

片瀬 智美 先生

〈助言者〉亀玉小学校 齋藤 昌長 校長

研究テーマは「大すき 内野のたからもの」です。地域の宝物を探し、その宝物を守る活動を通して、人・もの・ことと十分にかかわり、課題を見つけて解決したり、情報を再構築したりすれば、新たな価値に気づき、自分にできることにつなげて考える子になるだろうと仮説を立てました。農業コースや古墳コースなど、いくつかのコースに分かれて追究活動を行い、調べたことを劇や紙芝居、クイズなどで発表しました。

成果として、意図的に設定したコースへ複数回探検したことで、じっくりと地域の魅力に触れることができ、課題を見付け、主体的に取り組めました。また、表現する形式を統一することで、比較しやすく、共通点を見つけやすくなりました。課題として、学年内で違うコースとの交流が少なかったことがあげられたので、今後は情報共有の時間を十分に設定できるように工夫したいと思います。



#### (2) 「私の未来予想図～過去からつながっている私 未来へつなげていく私～」

〈発表者〉丸塚中学校 太田 賢 先生

柴本 峰明 先生

〈助言者〉舞阪小学校 平野 敦子 校長

本校の総合的な学習のねらいは、①他者や社会と関わる力、②課題設定力、③課題探究力、④表現力、⑤自己の生き方を考える力の五つです。三年生では、ふれあい（パパママ）体験を通して子供と触れ合うとともに、保護者やボランティアの方々とも積極的に関わる活動を行いました。また、自分史づくり

や職業人インタビュー活動を通して、「未来予想図」を作成しました。

成果として、様々な立場の大人からの助言や、同級生の意見を聞くことで、考えに広がりや変化を持つことができました。また、これまでの自分を振り返ることで、多くの生徒が、将来の理想に向けてこれからの自分に何が必要か、考えることができました。今後もこのようなキャリアプランニング能力を育む教育活動を推進していきたいと思います。



## 【講話】

### 「新学習指導要領における総合的な学習の展開」

愛知教育大学教授 中野 真志 氏

新学習指導要領では「主体的で対話的な深い学び」が求められています。子供の成長をボトムアップするために、総合的な学習では課題解決学習を行っていますが、解決するだけでなく、その後に生かすことが大切です。学習計画は、学級、学年、校種を超えた横断的なものを意識するといいいでしょう。

テーマを決定する際は、子供にとっての価値と教師にとっての価値をすり合わせていくことが効果的な学習につながります。学習効果を高めるか否かは、教師自身の生き方に関わってきます。子供の探求しようとする姿勢や粘り強くあきらめない姿勢などの育成には、教師の生き様が試されていると考えてください。

アメリカでは自分のルーツを探る自分史づくりを行う学校が多いようです。家庭環境の問題などいろいろと課題はあると思いますが、日本でも行う学校が増えるといいと思います。日本ではしばしば子供が傍観席に置かれてしまいます。自分史づくりなどの活動を通して、子供の意見をしっかりと聞き、子供主体の授業を心がけ、傍観者ではなく重要な地域の一員＝市民という意識をもって授業に臨んでほしいと思います。教師は子供が失敗しないようについ手を差し伸べたくなくなってしまいますが、そうすると子供に生きる力がつい



できません。

中学校では、調べ学習で終わってしまうケースがしばしば見られます。思考や視野を広げるためにも、外に出て偶然の出会い場を設定することも大変有効です。想像力のない教師の下では想像力のある子供は育ちません。教師自身の発想の転換のきっかけにもなりますので、今以上に外に目を向けることをこれからの教育活動で意識されるといいでしょう。

## 【講座】

### NIE 講座「知って得する新聞活用術」

講師 静岡新聞社読者プロモーション局

読者部長 吉本 寿 氏

NIE (Newspaper in Education) とは、新聞を教材として活用する教育のことです。主な活動は以下の三つです。

#### ①新聞で知る

今ではインターネットで何でも調べられますが、新聞では、自分に興味がないことも目に入ってきます。この偶然性が新たな視点、知識、興味につながります。



#### ②新聞を使う (活用する)

情報源として「新聞」を使うことはもちろん、「新聞紙」(=紙素材)としても使うことができます。

#### ③新聞を作る

一般的な形式ばかりではなく、学級新聞やハガキも「新聞」となります。

以上の活動を通して活字に親しみ、読解力の育成につなげてほしいと考えています。主体的な取り組みは、主催者教育にもつながります。毎日10～15分、新聞を読むことを推奨します。知らなかった世界が見えてくるでしょう。

